



まえがき

◇ 上越教育大学長 若井 彌一

序章

◇ 創設の理念と目的

◇ 大学憲章

第一章	第二章	第三章	第四章
◇ 組織の運営状況に関する自己点検・評価 1 年度のハイライト 2 平成21年度の大学運営 3 管理運営組織等 4 教育・研究組織等 5 学生支援 6 附属施設等 7 その他	◇ 各教員の教育・研究活動及び社会との連携に関する自己点検・評価	◇ 本学評価基準に基づく自己点検・評価	◇ 資料編 1 管理運営 2 教育・研究活動 3 兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究所 ○ 国立大学法人上越教育大学 評価関係規程等

あとがき

◇ 上越教育大学副学長
大学評価委員会委員長 川崎 直哉

○ 国立大学法人上越教育大学 大学評価委員会委員名簿

上越教育大学 基礎資料（平成22年度）

目 次

I 入学者選抜及び教務関係

1 学校教育学部

(1) 入学者選抜	1
(2) 入学試験状況	6
(3) 入学者選抜試験改善のための検討状況	11
(4) 出身都道府県別・年度別入学者数	12
(5) 出身都道府県別・年次別在学者数	13
(6) 専修・コース別在学者数	14
(7) 第1年次学生の専修・コース分けの概要	
(8) 卒業者数	
(9) 平成22年度教育実習実施計画	15
(10) 年度別教育職員免許状取得状況	18

2 大学院学校教育研究科

(1) 入学者選抜	19
(2) 平成22年度入学者選抜に係る現職教員の教職経験年数等	22
(3) 新教育大学の大学院入学者選抜試験状況（年度別・専攻別）	24
(4) 出身都道府県別入学者数	27
(5) 出身都道府県別・年次別在学者数	29
(6) 年次別，専攻・コース別在学者数	30
(7) 現職教員在学生の年齢・教職経験年数・学校種別調	31
(8) 修了者数	32
(9) 平成22年度教育実習実施計画	33
(10) 年度別教育職員免許状取得状況	36

Ⅱ 国際交流及び生涯学習事業関係

1 国際交流

(1) 上越教育大学における国際交流・留学生交流の在り方	37
(2) 海外教育(特別)研究	38
(3) 交流協定校	39
(4) 海外派遣留学生	} 40
(5) 外国人留学生の受入れ	
(6) 外国人研究者の受入れ	

2 公開講座

(1) 平成22年度実施計画	41
(2) 平成21年度実施状況	48

3 文化講演会

(1) 平成22年度実施計画	} 53
(2) 平成21年度実施状況	

4 大学等地域開放特別事業

(1) 平成22年度実施計画	} 54
(2) 平成21年度実施状況	

5 出前講座(地域貢献事業)

(1) 平成22年度実施計画	55
(2) 平成21年度実施状況	69

6 地域連携等推進事業

平成21年度実施状況	71
------------	----

Ⅲ 学生支援関係

1 学生指導事業

- (1) 平成22年度新入生オリエンテーション等実施計画 72
- (2) 平成21年度新入生オリエンテーション等実施状況 73

2 学生団体

- (1) 年度別学生団体数等推移状況 74
- (2) 平成22年度学生団体一覧 75

3 奨学金受給状況

- (1) 平成21年度日本学生支援機構奨学金受給状況 76
- (2) 平成21年度日本学生支援機構以外の奨学事業団体奨学金受給状況 } 77
- (3) 平成21年度上越教育大学くびきの奨学金受給状況 }

4 授業料免除及び入学料免除実施状況

- (1) 平成21年度授業料免除状況 } 78
- (2) 平成21年度入学料免除状況 }

5 大学会館利用状況

- (1) 平成21年度利用状況 } 79
- (2) 平成20年度利用状況 }

6 学生宿舎及び国際学生宿舎

- (1) 平成22年度入居状況 80
- (2) 施設・設備の現状 81
- (3) 入居生活に要する経費 83

7 就職指導

- (1) 平成22年度就職指導計画 84
- (2) 平成21年度教職講座及び就職ガイダンス等実施状況 85
- (3) 教員採用試験受験・合格状況（公立学校） } 86
- (4) 教員就職状況 }

8 就職状況

- (1) 学校教育学部 87
- (2) 大学院学校教育研究科 91
- (3) 都道府県別公立学校教員就職者数 94

9 インターンシップ

- (1) 本学のインターンシップ } 95
- (2) 実施状況 }
- (3) インターンシップ実施要項 }

IV 図書館，各センター，心理教育相談室，各附属学校園関係

1 図書館

- (1) 蔵書 96
- (2) 年度別利用状況 97

2 学校教育実践研究センター

- (1) 設置の趣旨（目的）及び組織 } 98
- (2) 施設・設備の現状 }
- (3) 平成22年度運営・活動計画 }

3 保健管理センター

- (1) 設置の趣旨（目的）及び組織 } 99
- (2) 施設・設備の現状 }
- (3) 平成22年度学生健康診断実施計画 }
- (4) 平成21年度学生健康診断受診状況 } 101
 - ① 定期健康診断受診状況 }
 - ② 特別健康診断検査状況 102
 - ③ 精神保健相談状況 103
- (5) 平成21年度利用状況 104

4 情報メディア教育支援センター

- (1) 設置の趣旨（目的）及び組織 } 105
- (2) 施設・設備の現状 }
- (3) センターの機能（業務内容） }
- (4) 平成22年度運営・活動計画 }

5 特別支援教育実践研究センター

- (1) 設置の趣旨（目的）及び組織 } 106
- (2) 施設の現状 }
- (3) センターの機能（業務内容） }
- (4) 平成22年度運営・活動計画 107

6 心理教育相談室

- (1) 設置の趣旨（目的）及び組織 } 108
- (2) 施設・設備の現状 }
- (3) 相談室の機能（業務内容） }
- (4) 相談料 }
- (5) 平成22年度運営・活動計画 } 109
- (別紙) 心理教育相談室平面図 110

7 附属学校

- (1) 設置の趣旨（目的） } 111
- (2) 附属幼稚園 }
- ① 所在地， ② 教員数， ③ 平成22年度運営・活動計画 }
- (3) 附属小学校 }
- ① 所在地， ② 教員数， ③ 平成22年度運営・活動計画 }
- (4) 附属中学校 } 112
- ① 所在地， ② 教員数， ③ 平成22年度運営・活動計画 }
- (5) 附属学校別入学定員・児童数等 113

V 役員・職員，予算，施設関係

1 役員・職員の現員

(1) 役員・職員現員表	114
(2) 年度別現員状況表	} 115
(3) 年度別大学教員等任用状況表	
(4) 教科教育担当教員現員数	
(5) 小・中・高等学校等教員経験者	116

2 予算・施設等

(1) 平成22年度収入・支出予算	
①平成22年度国立大学法人上越教育大学収入予算	117
②平成22年度国立大学法人上越教育大学支出予算	118
(2) 平成21年度収入予算額・決算額	119
(3) 平成21年度支出予算額・決算額	120
(4) 年度別科学研究費補助金申請及び採択状況（平成17年度～平成22年度）	121
(5) 年度別奨学寄付金・受託研究等受入状況（平成19年度～平成21年度）	122
(6) 研究プロジェクト	} 123
(7) 年度別大型設備整備状況	
(8) 土地・建物の概要	124
(9) 建物配置図	
①山屋敷地区	125
②西城地区	126
③本城地区	127
④赤倉地区	128
(10) 年度別施設整備状況	129

VI 連 合 大 学 院 関 係

1 連 合 学 校 教 育 学 研 究 科 の 概 要 等

(1) 設置の趣旨	}	130
(2) 教育・研究の概要		
(3) 研究指導と履修形態	}	131
(4) 履修方法等		
(5) その他		132

2 運 営 組 織 ・ 担 当 教 員 等

(1) 運営組織図	134
(2) 運営に関する構成国立大学法人間協定書	135
(3) 教員名簿（上越教育大学）	138
(4) 本学からの委員等	139

3 入 学 者 選 抜 状 況 等

(1) 出願状況	141
(2) 受験状況	142
(3) 合格状況	143
(4) 在学生及び指導教員一覧	144

4 修 了 者 数

年度別修了者数	147
---------------	-----

平成21年度 学生による授業評価実施要項

1 目的

授業をどのように構築・再構築していくかの課題に対して有益な情報を得る。

2 評価対象授業

- (1) 学 部 全授業科目
- (2) 大学院 全授業科目

3 評価方法

マークカード方式による5段階評価とし、その他に自由記述欄を設ける。

4 アンケート対象者

学部生，大学院生，科目等履修生全員

5 アンケート調査実施時期

前期及び後期授業の終了時に実施する。

6 アンケート調査用紙 別紙のとおり

7 配付方法及び回収方法

アンケート用紙は，授業担当教員が世話役となる学生を指名し，アンケート用紙の配付・回収を依頼し，教育支援課教務支援チーム（カウンター回収箱）に提出させるものとする。なお，授業担当教員は，アンケート用紙の配付・回収には関与しない。

8 授業評価の活用

前期及び後期のアンケート調査結果を参考に，次の事項について教員が自己評価レポートを作成する。

- (1) 「学生による授業評価」に対する自己分析
- (2) 次年度授業改善に向けての計画
- (3) FD推進のシステムや改善方策についての意見

9 情報の公開

授業評価に関する情報は，個人情報の取扱いに留意の上，学内に公開する。

学生各位

大学評価委員会

学生による授業評価アンケートの協力をお願い

この学生による授業評価アンケートは、授業担当教員及び授業を開設する専攻・コース等が、授業をどのように構築・再構築していくかの課題に対して、有益な情報を得ることを目的として実施するものです。また、学生自ら授業の在り方とその再構築に関与することによって、学生の評価力・授業構成力を培うとともに、授業に関して教員と学生とが、共に授業を構成するという協同関係を築くことも意図するものです。

なお、アンケート結果は、集計され次第、授業担当教員に提示され、学生による授業評価に対する自己分析や改善に向けての計画等について教員が自己評価レポートを作成します。

学生による授業評価結果と教員による自己評価レポートは、本学ホームページ上に学内限定で公開します。

授業担当教員は、世話役となる学生を指名し、アンケート用紙の配付・回収を依頼するのみで、用紙の配付・回収には関与しません。

世話役の学生が、適宜の方法により回収し、所定の回収袋に封入後、速やかに教育支援課内の回収箱に投函してください。（回収袋に封入することが間に合わなかった分については、直接教育支援課内の回収箱に投函していただいても結構です。）

授業に関するアンケート

このアンケートは、教育の質の向上と改善を図るための参考資料を得ることを目的とするものです。主に授業毎に、基本的な授業の方法や内容に重点をおいてアンケートを行います。このアンケート結果を他の目的に使うことはありません。

学生種別	学 年	授業科目番号	授業科目名	授業担当教員名
<input type="checkbox"/> 学 部 生	<input type="checkbox"/> 1 年 <input type="checkbox"/> 2 年			
<input type="checkbox"/> 大学院生	<input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年			
<input type="checkbox"/> そ の 他 (上記以外)				

○ はじめに、あなた自身の取り組みについて		評 価				
		はい < - - . - - > いいえ				
①	あなたは、この授業に意欲的に（あるいは集中して）取り組みましたか。	5	4	3	2	1
②	あなたは、この授業内容を発展させるため、授業中以外の時間に努力をしましたか。	5	4	3	2	1
③	この授業で、この分野における新しい知識、手法、技能等を修得することができましたか。	5	4	3	2	1
④	授業を受講する際に、教員になる(である)ことを意識して、授業に臨んでいますか。	5	4	3	2	1
⑤	授業を受講する際に、シラバスを確認していますか。	5	4	3	2	1
○ 授業の方法について		評 価				
		はい < - - . - - > いいえ				
⑥	授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	5	4	3	2	1
⑦	教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注) ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	5	4	3	2	1
⑧	板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 注) ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	5	4	3	2	1
⑨	この授業の教え方は、適切でしたか。	5	4	3	2	1
※	1又は2と評価した設問番号について、その理由等コメントがあれば記入してください。	番 号	コメント			
○ 授業の内容について		評 価				
		はい < - - . - - > いいえ				
⑩	この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	5	4	3	2	1
⑪	この授業目標は、明確でしたか。	5	4	3	2	1
⑫	この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注) 上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。	5	4	3	2	1
⑬	この授業の難易度は適切でしたか。	5	4	3	2	1
⑭	この授業は、興味深い授業内容でしたか。	5	4	3	2	1
⑮	あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	5	4	3	2	1
※	1又は2と評価した設問番号について、その理由等コメントがあれば記入してください。 (⑬は、「難しい」か「容易過ぎ」かも記入。)	番 号	コメント			
○ この授業の方法及び内容について、特に気になっていることを簡潔に記載願います。 なお、複数の教員が担当している授業については、担当教員が分かるような記載をしてください。						

ご協力ありがとうございました。なお、このアンケート集計結果は、本学HP上に学内限定で公開する予定です。

(上越教育大学平成21年度 期)

上越教育大学 平成21年度学生による授業評価報告書

目次

I. [はじめに](#)

II. 調査の目的・方法

(1) [調査の概要](#)

(2) [平成21年度学生による授業評価実施要項](#)

(3) [調査の回答状況](#)

[集計結果\(平成18～21年度\)](#)

[集計結果\(平成17～21年度:平均値の比較\)](#)

III. 学生による授業評価結果

(1) 学校教育学部

全専修・コース

人間教育学関連科目 [前期] [後期]

相互コミュニケーション科目 [前期] [後期]

ブリッジ科目I [前期] [後期]

教育実践科目 [前期] [後期]

専門科目(自由科目) [前期] [後期]

学習臨床コース

学習臨床 [前期] [後期]

生徒指導総合 [前期] [後期]

学校心理 [前期] [後期]

臨床心理学コース

[前期] [後期]

幼児教育コース

[前期] [後期]

教職デザインコース

[前期] [後期]

言語系コース

国語 [前期] [後期]

英語 [前期] [後期]

社会系コース

[前期] [後期]

自然系コース

数学 [前期] [後期]

理科 [前期] [後期]

芸術系コース

音楽 [前期] [後期]

美術 [前期] [後期]

生活・健康系コース

保健体育 [前期] [後期]

保健 [前期] [後期]

技術 [前期] [後期]

家庭 [前期] [後期]

(2) 大学院(修士課程)

共通科目

[前期] [後期]

専攻科目

研究プロジェクトに関する科目		[前期]	[後期]
学習臨床コース		[前期]	[後期]
発達臨床コース		[前期]	[後期]
学校臨床研究コース	学習臨床研究	[前期]	[後期]
	生徒指導総合	[前期]	[後期]
	学校心理	[前期]	[後期]
臨床心理学コース		[前期]	[後期]
幼児教育コース		[前期]	[後期]
障害児教育専攻		[前期]	[後期]
特別支援教育コース		[前期]	[後期]
言語系コース	国語	[前期]	[後期]
	英語	[前期]	[後期]
社会系コース		[前期]	[後期]
自然系コース	数学	[前期]	[後期]
	理科	[前期]	[後期]
芸術系コース	音楽	[前期]	[後期]
	美術	[前期]	[後期]
生活・健康系コース	保健体育	[前期]	[後期]
	技術	[前期]	[後期]
	家庭	[前期]	[後期]
	学校ヘルスケア	[前期]	[後期]

- (3) 大学院(専門職学位課程)
 教育実践高度化専攻 [前期] [後期]

IV. 教員による自己評価等

- (1) 各授業科目に対する自己評価(コース等ごとの教員氏名五十音順)

学校臨床研究(学習臨床研究)	言語系(英語)	生活・健康系(技術)
学校臨床研究(生徒指導総合)	社会系	生活・健康系(家庭)
学校臨床研究(学校心理)	自然系(数学)	生活・健康系(学校ヘルスケア)
臨床心理学	自然系(理科)	教育実践リーダー・学校運営リーダー
幼児教育	芸術系(音楽)	学校教育実践研究センター
特別支援教育	芸術系(美術)	保健管理センター
言語系(国語)	生活・健康系(保健体育)	国際交流推進室

- (2) 「学生による授業評価」の在り方等についての意見 [前期] [後期]

V. 資料

教育実習ルーブリックについて実習協力校からの意見・要望等

意見・要望等	回答
<p>段階を追って、到達目標が整備され、分かりやすく表現されています。学生にとっても分かりやすく、指導する側も評価の観点として活用できそうです。</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>「保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築く。地域社会の一員として、地域や学校の各種行事やボランティア等に参加し、その責務を果たすことができる」</p> <p>これは教員として欠かせない資質です。ただ、4年生の実習生にここまで求められるのでしょうか。カリキュラムをよく理解していないので的外れかもしれませんが。</p>	<p>ご指摘の到達目標は、4年生の実習生としてではなく、卒業段階での到達目標になります。本学では、1年生段階から、地域との関わりを推奨しています。また、保護者への対応については、初任者（若手教師）にとっては喫緊の教育課題とされています。本学の卒業生にあっても、保護者や地域の関係者と良好な関係を築くことができる基礎的な資質を培うことを一つの目標としたいと思います。</p>
<p>全体的に妥当であり、ある程度客観的な評価ができるようになってよい、と思います。しかしながら、実際に評価活動をしながらでないで検討しにくい、というのが正直な感想です。というのも、ルーブリックそのものの特性でしょうが、いくら詳しく設定（記述）したとしても、行動に関する評価とその基準はどうしても主観的になってしまいます。</p>	<p>ご指摘の点ですが、ルーブリックは一つの指標であり、今後、実践を通じて、よりよいものに改善していく予定です。教育の場での評価ですから、主観を完全に排除することは困難かと思います。今後とも実践を通じて、見直していく予定です。ご意見をお寄せいただけましたら幸いです。</p>
<p>きめ細かく考えられていると思います。12「受容・公平」にかかわって、子どもと実習生の間に一線も必要かと思います。</p>	<p>子どもとの関係づくりについては、本学でも重視している部分です。事前指導でも再確認いたします。</p>
<p>到達目標、ルーブリックとも教員として求められる力について細かく検討されており、教育実習受入校としても、指導・評価を行う上で、たいへん参考になります。</p>	<p>ありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>実習で学生の対応をしていると困るのは待ちの姿勢です。対人関係能力となるのですが、電話やメールで、連絡や相談、進行状況を早めに報告いただきたいと思います。学校から連絡が来ないと、アクションを起こせないのでは、十分な指導を行うことは難しい。</p>	<p>「実習校と密に連絡をとること」、「積極的な姿勢」については、実習の事前指導等で再確認いたします。</p>

意見・要望等	回答
<p>これでよいと思います。こういうものは、あまり細かくしすぎてもよろしくない。9割，8割くらいと判断して，その点数にあうように調整するくらいでいいのです。</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>児童や生徒との関係を上下関係（児童は教師の言うことをきくもの）と，とらえていると，言葉遣いや態度にあらわれます。7の愛情にかかわると思います。対人関係能力にコミュニケーションが必要では。10の誠実にもかかわるが，自分から教師や児童に関わっていけるかが，指導・助言を受け入れる前の大切な要素だと思う。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。「かかわり合う力」「積極性」については，本学でも重視している部分です。教育実習ループリックにも，随所にそうした意図を盛り込みました。また，教育実習の事前指導等でも再確認いたします。</p>
<p>大変細かに項目が設定され感心します。学生からすれば，多方面の視点，観点は自己研修の糧となると思います。実習校からは，これらすべての面を見極めて，評価することになれば大変さを感じます。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。教育実習ループリックは，一つの評価の指針です。一つ一つの項目について厳格に評価することは考えていません。ゆるやかにとらえていただければ幸いです。</p>
<p>大変すばらしい内容だと思います。</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>「ファーストステージ」－「セカンド」－「サード」と表現の上では確かに基準が高くなっているが，それを評価するのは，やはり難しいように感じる。法令の理解等についての表記があるが，現場の教員でも，難しいと思われまます。そこまで実習生に求めるのか。</p> <p>授業の技術は，いくらでも指導して高めていくことはできるが，一社会人としてのモラルや教員として必要な資質は，すぐに身につくものではない。大学の毎日の仕事の中で，モラルや資質を高めていくようなアドバイスやカウンセリングをしていただければ幸いです。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。最近の実習において，教育現場における法令等の理解が甘く，多様なご迷惑をおかけした事例がありました。教育実習において予見される最低限の法令等については再確認いたしたいと思います。また，一社会人としてもモラルについては，教育実習だけではなく，本学のカリキュラム全体で培うものと考えます。教育実習の事前指導においては，例年，厳しく指導はしていますが，実習の場においても，ご指導のほどお願いいたしたいと思います。また，学内の教育支援体制については，継続して見直していく予定です。</p>

意見・要望等	回答
<p>新構想の大学にふさわしい，新しい時代の教員養成に合致したものである。段階を追った系統的な構成であり，到達目標も明確である。今後改善がなされた段階で，随時，現場にも公開していただけるとありがたい。</p>	<p>ありがとうございます。教育実習ルーブリックにつきましては，今春公表の予定です。また，平成21年度の初等教育実習・中等教育実習から活用の見通しです。</p>
<p>3年次の「ファースト」「セカンド」「サード」の区別が一目で分かれるとよい。違いをゴシックにする。違いだけを書く。34観点は多すぎる。もっと少なくできないか。ちなみに，このルーブリックは，私たち教師にも使えそうです。授業研究等で。そのとき，つまり，1時間の授業で，すべて評価可能な量がよいです。社会性等は抜かして。</p>	<p>形式については，レイアウト等を含め，参考にさせていただきます。この教育実習ルーブリックは，教育実習全体を通じての評価するため作成いたしました。授業場面では，教科指導等の項目を参考にしてください。</p>
<p>大項目，中項目，小項目がすっきりして分かりやすくなりました。これを平成21年4月の会に改めてお配りいただき，実際の評価する担当教諭にも読んでもらうといいです。</p>	<p>ありがとうございます。4月の会において，説明させていただきます。</p>
<p>特にありません。3名 概ね妥当だと思います。1名</p>	

平成22年度文部科学省委託事業

教員の資質能力の向上に係る基礎的調査

中間報告書

平成23年 3 月

上 越 教 育 大 学

別添資料 7-2-1 「学生による授業評価アンケート集計結果」

学生による授業評価アンケート集計結果(平成17～21年度:平均値の比較)

○学校教育学部

アンケート事項	5段階評価の平均値				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
○はじめに、あなた自身の取り組みについて					
① あなたは、この授業に意欲的に(あるいは集中して)取り組みましたか。 旧①	4.10	4.09	4.16	4.21	4.22
② あなたは、この授業内容を発展させるため、授業中以外の時間に努力をしましたか。 旧③	3.39	3.38	3.65	3.68	3.65
③ この授業で、この分野における新しい知識、手法、技能等を修得することができましたか。 旧⑩	4.01	4.02	4.09	4.14	4.13
④ 授業を受講する際に、教員になる(である)ことを意識して、授業に臨んでいますか。	3.65	3.71	3.89	4.00	4.01
⑤ 授業を受講する際に、シラバスを確認していますか。	2.39	2.20	2.30	2.46	2.65
○授業の方法について					
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	3.87	3.90	3.97	4.02	4.06
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	3.90	3.90	3.99	4.03	4.07
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。	3.68	3.72	3.83	3.89	3.97
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	3.86	3.89	3.96	4.02	4.06
○授業の内容について					
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	3.89	3.92	4.01	4.03	4.07
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	3.91	3.96	4.03	4.07	4.08
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 注)上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。	3.35	3.73	3.87	3.91	3.94
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	3.86	3.90	3.95	3.97	3.99
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	4.04	4.05	4.11	4.13	4.16
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑮	3.98	4.01	4.05	4.08	4.12

注)旧○数字は、平成18年度までの質問項目番号

学生による授業評価アンケート集計結果(平成17～21年度:平均値の比較)

○大学院 学校教育研究科

アンケート事項	5段階評価の平均値				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
○はじめに、あなた自身の取り組みについて					
① あなたは、この授業に意欲的に(あるいは集中して)取り組みましたか。 旧①	4.46	4.47	4.46	4.54	4.56
② あなたは、この授業内容を発展させるため、授業中以外の時間に努力をしましたか。 旧③	3.92	3.90	3.88	4.08	4.18
③ この授業で、この分野における新しい知識、手法、技能等を修得することができましたか。 旧⑬	4.42	4.45	4.45	4.55	4.55
④ 授業を受講する際に、教員になる(である)ことを意識して、授業に臨んでいますか。	4.14	4.16	4.14	4.26	4.36
⑤ 授業を受講する際に、シラバスを確認していますか。	3.63	3.40	3.44	3.69	3.72
○授業の方法について					
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	4.37	4.40	4.40	4.47	4.44
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。 <small>注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。</small>	4.32	4.37	4.36	4.49	4.46
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。 <small>注)ゼミ形式等の授業であり、該当しない場合は、マーク不要です。</small>	4.13	4.22	4.21	4.39	4.38
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	4.34	4.37	4.37	4.47	4.44
○授業の内容について					
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	4.29	4.36	4.37	4.45	4.41
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	4.39	4.44	4.46	4.52	4.47
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。 <small>注)上の設問番号⑤で、シラバスを確認していないと回答した場合は、マーク不要です。</small>	4.03	4.22	4.26	4.35	4.33
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	4.20	4.23	4.26	4.39	4.35
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	4.48	4.49	4.51	4.59	4.56
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。 旧⑮	4.41	4.44	4.44	4.52	4.50

注)1 旧○数字は、平成18年度までの質問項目番号

2 平成20年度は、専門職学位課程の臨床共通科目(前期)及び学校支援プロジェクト科目(後期)を除く。

3 平成21年度は、専門職学位課程の臨床共通科目(前期)を除く。

○上越教育大学大学院学校教育研究科 ティーチング・アシスタント実施要項

(平成16年4月1日)
(学長裁定)

改正 平成19年2月16日

改正 平成20年2月20日

上越教育大学大学院学校教育研究科ティーチング・アシスタント実施要項

(趣旨)

- 1 この要項は、大学院学校教育研究科の優秀な学生（以下「大学院学生」という。）に教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、上越教育大学（以下「本学」という。）における教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るため、必要な事項を定める。

(名称)

- 2 前項に規定する教育補助業務を行う者の名称は、ティーチング・アシスタントとする。

(職務内容)

- 3 ティーチング・アシスタントは、授業科目を担当する教員（以下「授業担当教員」という。）の指示に従い、本学学校教育学部（以下「学部学生」という。）に対する演習、実験、実習及び実技の授業科目について教育補助業務を行うものとする。この場合において、非常勤講師が担当する授業科目を除くものとする。

(身分)

- 4 ティーチング・アシスタントの身分は、非常勤職員とする。

(任用条件)

- 5 ティーチング・アシスタントは、大学院学生のうち、次の各号に掲げる者に該当するものから任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された大学院学生は、除くものとする。

(1) 学業が優秀で、人格が円満であり、かつ、指導者としての適性を有する者

(2) 教員又は研究者となることを希望しており、ティーチング・アシスタントとしての経験が役立つと思われる者

(実施計画)

- 6 専攻長は、授業担当教員からティーチング・アシスタントによる教育補助業務の実施の希望があった場合には、別記第1号様式のティーチング・アシスタント実施計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(授業科目の選定)

- 7 教育補助業務を実施する授業科目の選定は、教務委員会が行う。

(任用計画)

8 専攻長は、申請した授業科目が、前項の規定により選定された場合には、別記第2号様式のティーチング・アシスタント任用計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(選考)

9 ティーチング・アシスタントの選考は、教務委員会が行う。

(勤務時間)

10 ティーチング・アシスタントの勤務時間は、月40時間(週10時間程度)以内を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないように配慮するものとする。

(任用手続)

11 ティーチング・アシスタントの任用手続については、国立大学法人上越教育大学非常勤職員就業規程(平成16年規程第37号。以下「非常勤職員就業規程」という。)によるものとする。

(給与)

12 ティーチング・アシスタントの給与は、非常勤職員就業規程により取り扱うものとする。ただし、手当は時間給のみとし、他の給与は支給しないものとする。

(事前指導等)

13 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

(1) 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション

(2) 継続的かつ適切な指導助言

(3) ティーチング・アシスタントからの意見聴取等

(実施報告)

14 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントの任用期間が終了したときは、速やかに別記第3号様式のティーチング・アシスタント実施報告書を専攻長を経て、学長に提出するものとする。

(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科学生への適用)

15 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の学生で、本学に配属となった者については、本学の学生とみなして、この要項を適用する。この場合において、第1項中「上越教育大学大学院学校教育研究科」とあるのは「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科」と、第3項中「学部学生」とあるのは、「学部学生又は大学院学生」とする。

(事務の処理)

16 ティーチング・アシスタントに関する事務は、学務部教育支援課において処理する。

(その他)

17 この要項に定めるもののほか、ティーチング・アシスタントに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は，平成20年4月1日から施行する。

別記第1号様式（第6項関係）

ティーチング・アシスタント実施計画申請書

年 月 日

上越教育大学長 殿

専攻長 _____

下記のとおり 年度のティーチング・アシスタントの実施を計画しましたので、申請します。

記

要求 順位	授業実施組 織名	学部・大 学院の別	授 業 科目名	担当教員	学期	曜日	時限	週担当 予定時 間数	業務担 当予定 期間	業務内容
								時間	週	

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

別記第2号様式（第8項関係）

ティーチング・アシスタント任用計画申請書

年 月 日

上越教育大学長 殿

専攻長 _____

下記のとおり 年度のティーチング・アシスタントの任用を計画しましたので、申請します。

記

授業実施組織名	学部・大学院の別	授業科目名	担当教員	ティーチング・アシスタント				
				専攻・コース名 (専攻・連合講座名)	学籍番号	学籍番号	氏名	任用期間

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

別記第3号様式（第14項関係）

ティーチング・アシスタント実施報告書

年 月 日

上越教育大学長 殿

授業担当教員 _____

下記のとおり 年度のティーチング・アシスタントを実施しましたので、報告します。

記

専攻・コース名 (専攻・連合講座名)						
学 籍 番 号			氏 名			
任 用 期 間			年 月 日 ~ 年 月 日			
学 期	曜 日	時 限	学部・大学院 の別	授業科目名	週 担 当 時 間 数	業 務 担 当 期 間
					時間	週
					時間	週
教育補助業務の内容等						
得られた成果等の所見						

専攻長承認	氏名
-------	----

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

○上越教育大学大学院学校教育研究科 ティーチング・サポーター実施要項

(平成18年1月23日)
(学長裁定)

改正 平成19年2月16日

改正 平成20年2月20日

上越教育大学大学院学校教育研究科ティーチング・サポーター実施要項

(趣旨)

- 1 この要項は、小学校教諭普通免許状取得のための学校教育学部の必修科目のうち、教育職員免許取得プログラムの学生が履修することにより特に受講者が多い授業科目を対象に、大学院学校教育研究科の優秀な学生（以下「大学院学生」という。）に教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、当該授業科目の円滑な授業運営に資するため、必要な事項を定める。

(名称)

- 2 前項に規定する教育補助業務を行う者の名称は、ティーチング・サポーターとする。

(職務内容)

- 3 ティーチング・サポーターは、授業科目を担当する教員（以下「授業担当教員」という。）の指示に従い、本学学校教育学部の講義、演習、実験、実習及び実技の授業科目について教育補助業務を行うものとする。この場合において、非常勤講師が担当する授業科目を除くものとする。

(身分)

- 4 ティーチング・サポーターの身分は、非常勤職員とする。

(任用条件)

- 5 ティーチング・サポーターは、大学院学生のうち、学業が優れ、人格が円満であり、かつ、指導者としての適性を有する者から任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された大学院学生は、除くものとする。

(実施計画)

- 6 専攻長は、授業担当教員からティーチング・サポーターによる教育補助業務の実施の希望があった場合には、別記第1号様式のティーチング・サポーター実施計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(授業科目の選定)

- 7 教育補助業務を実施する授業科目の選定は、教務委員会が行う。

(任用計画)

- 8 専攻長は、申請した授業科目が、前項の規定により選定された場合には、別記第2号様式のティーチング・サポーター任用計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(選考)

- 9 ティーチング・サポーターの選考は、教務委員会が行う。
(勤務時間)
- 10 ティーチング・サポーターの勤務時間は、月40時間(週10時間程度)以内を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないように配慮するものとする。
(任用手続)
- 11 ティーチング・サポーターの任用手続については、国立大学法人上越教育大学非常勤職員就業規程(平成16年規程第37号。以下「非常勤職員就業規程」という。)によるものとする。
(給与)
- 12 ティーチング・サポーターの給与は、非常勤職員就業規程により取り扱うものとする。ただし、手当は時間給のみとし、他の給与は支給しないものとする。
(事前指導等)
- 13 授業担当教員は、ティーチング・サポーターに教育補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。
(1) 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション
(2) 継続的かつ適切な指導助言
(3) ティーチング・サポーターからの意見聴取等
(実施報告)
- 14 授業担当教員は、ティーチング・サポーターの任用期間が終了したときは、速やかに別記第3号様式のティーチング・サポーター実施報告書を専攻長を経て、学長に提出するものとする。
(事務の処理)
- 15 ティーチング・サポーターに関する事務は、学務部教育支援課において処理する。
(その他)
- 16 この要項に定めるもののほか、ティーチング・サポーターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成18年1月23日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

別記第1号様式（第6項関係）

ティーチング・サポーター実施計画申請書

年 月 日

上越教育大学長 殿

専攻長 _____

下記のとおり 年度のティーチング・サポーターの実施を計画しましたので、申請します。

記

要求 順位	授業実施組織名	授業科目名	担当教員	学期	曜日	時限	週担当 予定時 間数	業務担 当予定 期間	業務内容
							時間	週	

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

別記第2号様式（第8項関係）

ティーチング・サポーター任用計画申請書

年 月 日

上越教育大学長 殿

専攻長 _____

下記のとおり 年度のティーチング・サポーターの任用を計画しましたので、申請します。

記

授業実施組織名	授業科目名	担当教員	ティーチング・サポーター			
			専攻・コース名	学籍番号	氏名	任用期間

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。

別記第3号様式（第14項関係）

ティーチング・サポーター実施報告書

年 月 日

上越教育大学長 殿

授業担当教員 _____

下記のとおり 年度のティーチング・サポーターを実施しましたので、報告します。

記

専攻・コース名					
学籍番号			氏名		
任用期間			年 月 日 ~ 年 月 日		
学期	曜日	時限	授業科目名	週担当 時間数	業務担当 期間
				時間	週
				時間	週
				時間	週
教育補助業務の内容等					

専攻長承認	氏名
-------	----

(注) 専攻長氏名の記入は、署名（本人自署）又は記名押印のいずれかとする。